

沖縄県商工労働部 ものづくり振興課

工芸の島 沖縄

ていわざ
と
ぬくもり

CRAFTS
OF
OKINAWA

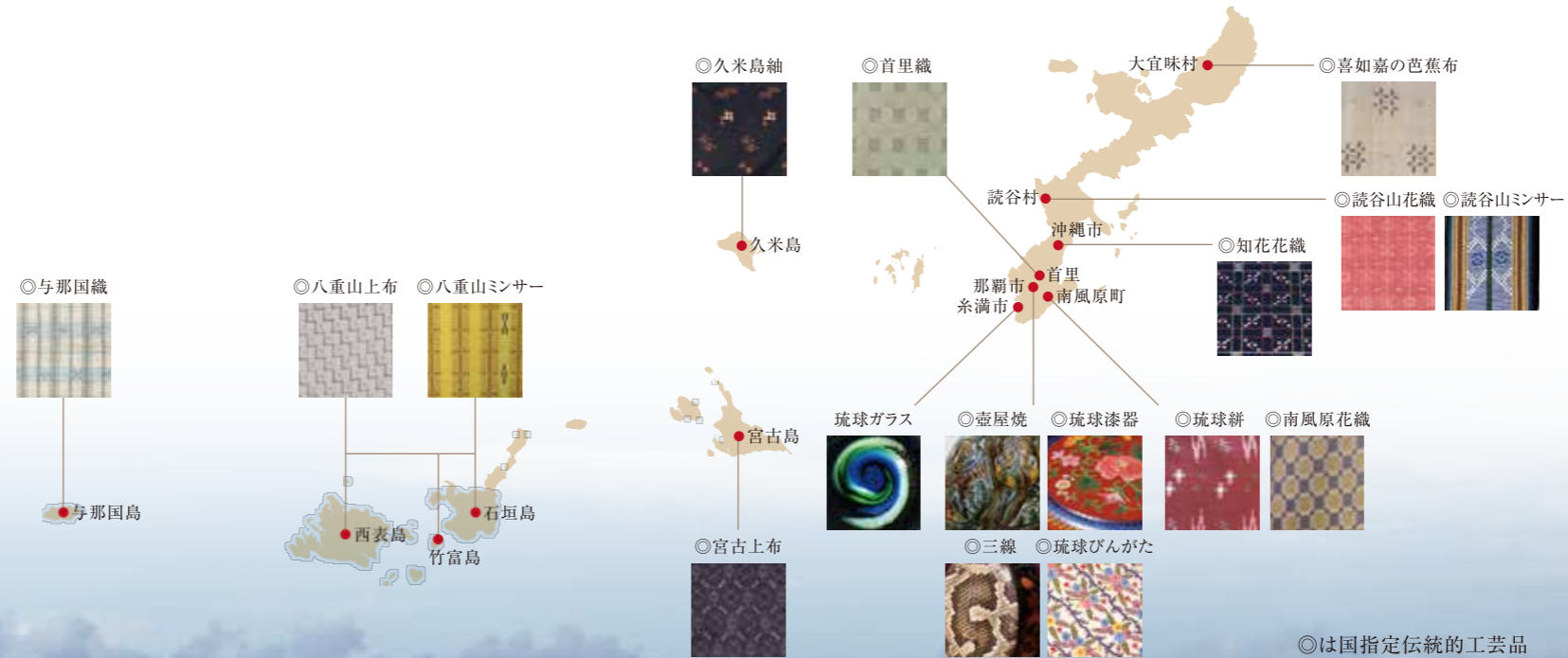
工芸の島 沖縄

沖縄は14～16世紀頃、日本本土・中国さらに
東アジア諸国との交易を通じて独特な伝統文化を形成してきました。
そのなかで沖縄の工芸は、諸外国の様々な良い面を取り入れ、
多彩なところが特徴であり、琉球王朝時代から今日に至るまで、
県内各地で受け継がれ発展しています。
沖縄県においては国指定の伝統的工芸品が16品目あり、
全国第3位の品目数となっています。
(平成30年11月7日現在)



「ていわごとぬくもり」工芸の島 沖縄の
イメージ映像を専用サイトからご覧いただけます。

C r a f t s o f O k i n a w a



I N D E X

地図/目次	P01/P02
喜如嘉の芭蕉布/知花花織	P03/P04
読谷山花織/読谷山ミンサー	P05/P06
琉球びんがた/首里織	P07/P08
琉球絣/南風原花織	P09/P10
久米島紬/宮古上布	P11/P12
八重山ミンサー/八重山上布	P13/P14
与那国織/インタビュー	P15/P16
三線/インタビュー	P17/P18
壺屋焼/インタビュー	P19/P20
琉球漆器/琉球ガラス	P21/P22
ウージ染め/小木工	P23
金細工/うらそえ織	P24
生産地情報/展示・体験施設	P25/P26

喜如嘉の芭蕉布

Kijoka no Bashofu

起源は13世紀頃、糸芭蕉の原皮からとれる糸を手で績み、
緋糸を手づくりし、琉球藍、車輪梅等の植物染料で染め、織りあげます。
沖縄固有の織物で、軽くてさらりとした風合いが古くから人々に愛されています。

原材料／芭蕉糸

主な製造地／大宜味村

主な製品／着尺、帯地、飾布

生産者組合／喜如嘉芭蕉布事業協同組合



知花花織

Chibana Hanaori

旧美里村で祭事の衣装や晴れ着として織られていました。

19世紀後半には技術・技法は確立され定着していたと考えられます。

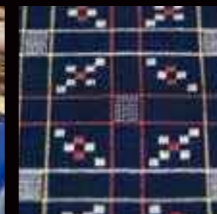
多くの花織は緯浮花織であるのに対して知花花織は経方向に文様が浮く経浮花織です。

原材料／綿糸、絹糸、琉球藍、ヤマモモ、サルトリイバラ、ビワ

主な製造地／沖縄市

主な製品／着尺、帯地、テーブルセンター、他小物類

生産者組合／知花花織事業協同組合



読谷山花織

Yuntanza Hanaori

起源は15世紀頃、琉球王府の御用布として、
読谷以外の一般庶民は着用できませんでした。
生糸、綿糸を素材に幾何学模様を糸色で
浮かせ、それに緋や縞・格子をあしらった
南国的な織物です。

原材料／絹糸、綿糸
主な製造地／読谷村
主な製品／着尺、帯地、テーブルセンター
生産者組合／読谷山花織事業協同組合



読谷山ミンサー

Yuntanza Minsa

起源は花織と同時期で
南方の影響が濃く表されています。
綿糸を素材として、たてうね織で、
整経された経糸に竹串などを用いて
浮文様を織り出しています。
「ミンサー」とは細帯を意味します。

原材料／綿糸
主な製造地／読谷村
主な製品／帯
生産者組合／読谷山花織事業協同組合



琉球びんがた Ryukyu Bingata

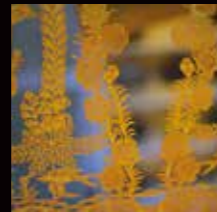
15世紀に始まった沖縄唯一の伝統的染物で、技法によって型付け(型染め)と糊引き(筒描き)とに分かれます。綿布、絹布、芭蕉布等に顔料及び植物染料を用いて手染めする色鮮やかな紅型と、琉球藍の浸染による藍型とがあり、それぞれ華麗な魅力を有しています。

原材料／絹織物、麻織物、芭蕉布、木綿織物

主な製造地／那覇市、宜野湾市、浦添市、糸満市、豊見城市、南城市

主な製品／着尺、帯地、飾布

生産者組合／琉球びんがた事業協同組合



首里織 Shuri Ori

琉球王朝の古都として栄えた首里では、南方諸国や中国の影響(15世紀頃)を受け、緋、花織、道屯織、花倉織、ミンサー等、独特の織物が織られています。王朝風の洗練されたデザインと手織りの醸し出す温かい肌ざわりで珍重されています。

原材料／絹糸、綿糸、麻糸、芭蕉糸

主な製造地／那覇市、西原町、南風原町

主な製品／着尺、帯地、飾布

生産者組合／那覇伝統織物事業協同組合

